

村上南小学校だより



# 連 鶴

〈教育目標〉  
学び  
きたえ  
思いやる子

H 2 2 . 4 . 2 8

## 「ならぬことは、ならぬ」ということについて

「のだめカンタービレ」「J I N - 仁」、漫画原作ものがテレビドラマになっている。「昔は小説が原作だったのに漫画とは？」と思うが、見ると確かにおもしろい（原作は読んでいないが）。「怪物くん」の実写版も放映されているらしい。昔、アニメで見ていた頃を思い出して懐かしい。「俺は怪物くんだ♪怪物ランドの王子だぞ♪♪俺の指先一本で♪♪♪」歌まで口ずさめるのだから、子どもの頃よく見ていたことになる。「嵐」の大野智が主役で、フランケンに韓国格闘家チェ・ホンマンがそう（これは確かにはまり役）。第1話のテーマは「うそ」。怪物くんの友だちヒロシ君がうそつきという原作と異なる設定にして、「うそ」とは何かを知らない怪物くんがその意味について考えていくという内容だそう。子どものためになるドラマを創ろうという制作者の思いが感じられると新聞に書いてあった。

子どものための漫画といえば、ドラえもんがすぐ浮かぶ。ドラえもんは四次元ポケットを使って、のび太の夢を叶えてくれる。しかし、ドラえもんが叶えさせない夢がある。

それは、「**自分のわがままで他人を傷つけたり、不幸にしたりする夢**」である。

たとえば、のび太が「ジャイアンやスネ夫を自分の言うことを何でも無条件に聞くロボットのように改造してほしい」とドラえもんに頼んだことがあった。

こんな夢の実現を頼まれても、ドラえもんは断固拒否する。そして、反対にのび太を叱って、反省を促すのである。のび太もまた、最終的にはドラえもんの言葉に従うのである。

かつて、わたしたち日本人は、子どもが行くべき方向を誤ったとき、子どもにかける何種類もの言葉をもっていた。例えば「窘める（たしなめる）」「諭す（さとす）」「戒める（いましめる）」「咎める（とがめる）」「言い聞かせる（いいきかせる）」など。こんなに、子どもを導く多くの言葉をもつ国は他にはないと思う。そこには、子どもの年齢や性格、悪いことの中身にに応じて、丁寧に使い分ける愛情がある。学校でも家庭でも地域でも、ドラえもんのように愛情をもって「**ならぬことは、ならぬ**」ことを伝えたいものである。

前述の「怪物くん」は、土曜日の夜に放映されているそうである。

親は昔を懐かしみながら、子どもは楽しみつつ社会のルールを学びながら親子揃って見る のもいいかもしれない。

